

平成23年度 森プロ事業実績：林建協働プロジェクト

(平成24年3月31日現在)

	H22年度		H23年度				5カ年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	346	281	136	68	50.0%		482	
作業道(m)	3,130	1,930	9,770	10,270	105.1%		26,400	
間伐等	面積(ha)	0	0	81	63	77.8%		393
	材積(m3)	0	0	1,680	2,178	129.6%	支障木含む	16,160
備考	作業道支障木1,527m3							

H23年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 3,870 円/m3

施業集約化の状況

- ・県行造林地において森林施業委託契約を締結

施業プランの活用状況

- ・高山市有林において施業プランに基づき施業を実践

施業プランナーの養成状況

- ・(岐阜県)H23年度施業プランナーステップアップ研修を1名受講し修了

作業道の状況

- ・H22年度繰越分を含め、幹線11路線完了。
- ・木材運搬先の県森連飛驒共販所へは集積箇所からの直送としたが、今後販売先の拡大を視野に入れ作業道残土を有効利用して中間土場を作設した。
- ・作業ポイントを各所に設置し、集材及び木材集積に有効利用することとした。
- ・切り盛り施工ができない急傾斜地が多く残土移動に労力を要したが、補助事業の規格等を有効活用し、コスト削減に努めた。
- ・集材を最大限意識した路線計画に努め、緩傾斜の尾根に支線を配するなど、効率的な利用間伐に繋がる路網配置が実現できた。
- ・路盤屋根型構造や側溝と暗渠を組み合わせた排水処理施工技術を研修し、実践した。
- ・路盤材に荒目の山土砂を利用し、安定した路体作設に配慮した。

<施工状況>



<施工中の土質調査>



<ハザードマップによる注意喚起>



作業システムの状況

- ・研修を兼ねてスイングヤードによる集材を実施した。
- ・降雪期においては作業道から直接集材が可能な区域に限定して集材を実施した。本格的な作業システムによる利用間伐はH24から着手する。



その他

- ・岐阜県主催のドイツフォレスター研修会を共催し、現地において欧州型作業道作設を実践した。



- ・建設業を本業とする作業従事者に対し、支障木伐採や造材、作業道出来形測量等に関する各種研修会を開催し、林業技術研鑽に努めた。

<造材研修会>

<作業道測量研修会>



森プロの成果

- ・作業道開設施工者に利用間伐を実施させることとし、意識した施工が実践できた。
- ・素材生産を意識した高密度路網を配置し、成果の検証が期待できる準備ができた。
- ・残土移動や林業機械利用など連携した作業ができた。

今後の課題

- ・低コスト化と安定路盤を両立させた路網作設技術の習得
- ・高密度路網を利用した利用間伐技術の習得
- ・建設業者による集約化と施業プラン立案